

CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 15 No.7 2013年4月15日号

編集:editor@cnar.jp 広告:pr@cnar.jp 読者登録:<http://cnar.jp>

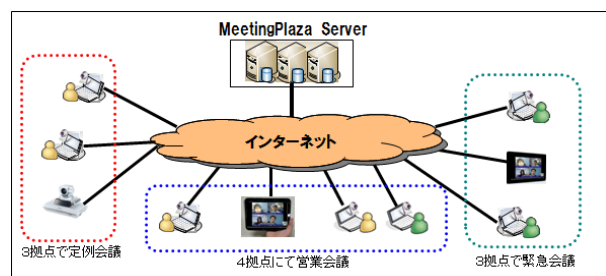
Copyright 2013 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

NTT アイティ、「ミーティングプラザ・サービス V7.0」のサービスを開始

NTT アイティ株式会社(横浜市中区)は、クラウド型 Web 会議サービス「ミーティングプラザ」の機能を拡張した、「ミーティングプラザ・サービス V7.0」を3月23日よりサービス開始した。(3月14日)

ミーティングプラザ・サービス V7.0 の特長は、以下の通り。(1)「複数会議室の同時開催」:契約の最大同時接続数の範囲内にて、自由に複数の会議室を同時に利用できる。たとえば、最大同時接続数 10 では、3 拠点・3 拠点・4 拠点での会議を同時に開催可能。これまでエンタープライズ版サービスやサーバ構築型のオンプレミスでしか使用できなかった。



複数会議室の同時開催：同時 10 接続を 3/4/3 会議室に分け、3 会議室にて使用時のイメージ(NTT アイティ 資料)

(2)「常設会議室の複数設定」:(1)に関連して、会議室を使用する際、事前予約以外にも、簡単に入室可能な常設会議室の複数設定も可能とした。

(3)「仮想ファイル共有」:ファイル単位で資料を共有し、参照ページの同期をとりつつ、各参加者が個々に前後のページも参照できる新ファイル共有機能。これまで、各クライアント端末のディスクに一時的に書き込んで行っていたファイル共有をメモリ上で実現した。これによりファイル漏洩の心配がないという。なお、この機能は、Windows OS クライアント端末のみ提供となっている。

(4)「会議予約はユーザからも登録・管理可能」:登録されたユーザに対して、新たに「会議予約権限」の付与が可能となり、会議予約の登録・変更が自由に行える。

(5)「各種設定のカスタマイズ機能」:会議室における、ファイル共有機能の削除、通信接続方法の標準値、音声/映像品質の標準値の設定を変更することが可能となった。

(6)「Mac 端末の機能強化」:Web サイトの資料共有機能に続き、Mac 端末でのアプリケーション共有機能が可能になった。共有データを受信・参照したり、Mac 画面上のデータをアップしたりして共有することが可能。

(7)「その他の機能強化」:Windows8 端末や Internet Explorer 10 のサポート。ユーザ ID・アドレス帳・予約データに対してインポート/エクスポート機能、など。

なお、機能強化の対象クラウドコースは以下の通り。(1)従量制コース:フレックス 2、ライト、レギュラー、スーパー。定額制コース:ライト、レギュラー、スーパー。

SOBA プロジェクトとアリエル、同時通訳と Web 会議を組み合わせたサービスを開始

B社(海外)

A社(日本)



同時通訳 X Web 会議サービス イメージ (SOBA プロジェクト 資料)

株式会社 SOBA プロジェクト(京都市下京区)は、Web ソリューション事業を行う株式会社アリエル(東京都渋谷区)と共同で、「同時通訳 X Web 会議サービス」を4月1日から開始

する。(3月27日)

同時通訳 X Web 会議サービスは、Web 会議と合わせて、同時通訳・翻訳を提供するサービス。利用者は、アリエル社が運営するウェブサイトから申込み、対応言語や会議内容について担当通訳者と事前に打ち合わせを行い会議に臨む。会議の時間には、通訳者は Web 会議上で参加する。

会議は、SOBA プロジェクトが開発した「SOBA mieruka」(ソーバ・ミエルカ)を利用。Microsoft Word、Excel、PowerPoint などの他、Windows アプリケーションであれば会議参加者全員のパソコンで共有できる。また会議中の資料データをそのまま翻訳サービスへ依頼することも可能(ただし、別途料金)。

一方、通訳は、英語、中国語、スペイン語、タイ語、マレー語など 35 カ国語に対応している通訳会社と提携している。

Web 会議は、日本と海外との多国間会議にも多く利用されているが、その際には別途依頼した通訳者がどちらかの事務所に同席して行われるのが一般的。しかし、アジア進出やグローバル化が進む中、日本企業で同時通訳をもっと手軽に安価で利用したいという声が多くあるため、この度 Web 会議と通訳を組み合わせることで、交通費や時間コストを抑えるとともに通常よりも安価で提供できるサービスを実現した。

価格例。Web 会議通訳・半日(3時間以内):SOBA 会員利用者については 80,000 円～、また、その他利用者については 100,000 円～となっている。この金額には、事前準備および会議後報告が含まれる。その他詳細については同社に問い合わせ要。SOBA 会員とは、SOBA プロジェクトの Web 会議を契約中のユーザとなっている。

日本アバイア、企業向けモバイルコラボレーションのセキュリティを強化

アバイア社(日本法人:日本アバイア株式会社、東京都港区)は、「Avaya Session Border Controller for

Enterprise(SBCE)」を発表した。(3月19日)

SBCE は、企業向けモバイルコラボレーションのセキュリティを強化するソリューション。リモートワーカー、ホームワーカー、モバイルワーカーなど SIP ベースのアプリケーションを保護し、モバイルコラボレーションのセキュリティ強化を実現する。

SBCE 上で単一の IP アドレスに自動認証を行うことができるため、仮想プライベートネットワーク(VPN)に接続する必要がなく(VPN レス機能)、また、SIP トラフィックのセキュリティを確保するため、オフィス以外の場所から豊富な UC 機能する際の利便性を向上させることができる。よって、たとえば、従業員が 1 台のデバイスを業務用と私用の両方に用いる BYOD をより効果的に管理できるとしている。

アップル社 iPad 上で「Avaya Flare Experience」に対応するほか、iPhone 上で「Avaya one-X Mobile」アプリケーションに対応する。

ポリコムジャパン、「Polycom RealPresence Mobile 2.2」の提供を開始

ポリコム社(日本法人:ポリコムジャパン株式会社、東京都千代田区)は、「Polycom RealPresence Mobile 2.2」のグローバル提供開始を発表した。(米国:2月25日、日本:3月12日)



Polycom RealPresence Mobile 2.2 は、Polycom SmartPairing と SVC をサポートし、Android デバイスと iOS デバイスで利用できません。

Polycom RealPresence Mobile 2.2(ポリコムジャパン資料)

Polycom RealPresence Mobile

は、ユニバーサルビデオコラボレーション

を実現するソフトウェアインフラストラクチャ「Polycom

RealPresence」を基盤としており、ビデオコラボレーションをタブレットやスマートフォンにまで拡張するもの。セキュアなビデオ会議接続を可能とし、ビデオ会議中にタブレットからコンテンツを共有できる。

今回のアップグレード版では、以下に対応。(1) Android デバイス向けに「Polycom Smart Pairing 技術」、コンテンツ共有、SVC をサポート。これらの機能は、iOS デバイスでも利用できる。(2) 新たに「Apple iPad mini」と「Apple iPhone5」に対応した。

Polycom RealPresence Mobile は、アップル、モトローラ、サムスン各社製のタブレットおよびスマートフォンデバイスをサポートしており、Apple AppStore と Google Play からそれぞれ無料で入手可能となっている。

ビジネス動向-国内

ユニアデックス、マイクロソフトの Microsoft Lync 認定サポートパートナー、ポリコム認定販売代理店に

ユニアデックス株式会社(東京都江東区)は、日本マイクロソフト株式会社の「Microsoft Lync 認定サポートパートナー」となった。また、ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)の販売代理店として認定された。ユニファイドコミュニケーション向けソリューションの拡大を図る。(3月21日)

Microsoft Lync 認定サポートパートナーになることで、ユニアデックスは、日本マイクロソフトが提供しているユニファイドコミュニケーション用ソフトウェア Microsoft Lync の包括的なサポートサービスを提供する。

また、マイクロソフトと戦略的パートナーであるポリコムの販売代理店として認定されることで、ポリコムのビデオ会議システムをはじめとする各種コミュニケーション製品の販売とサポートサービスを提供する。

これらのパートナーシップにより、3月21日より、Microsoft Lync の提供、マイクロソフト製品に最適化されている Polycom CX シリーズを中心としたポリコム製品の提供、これらを組み合わせた「ユニアデックス ビジュアル UC ソリ

ューション」を提供開始。場所や時間、デバイスにとらわれないバリアフリーのコミュニケーション環境を構築できるところに特長がある。

ユニアデックスは、機器の販売と構築/導入から国内約180ヶ所における保守サービスをワンストップで提供する。同社は、IP 電話環境の構築技術に強みがあり、Microsoft Lync が持つ PBX 機能(エンタープライズボイス機能)を活用することで、従来の非 IT 系 PBX から IT 系へスムーズに移行させるほか、メールシステムなど IT 基盤との統合やポリコムの製品群の統合などによって、コスト削減を実現するとともに、コミュニケーションの幅を大きく広げることが可能としている。

同社では今回発表したサービスにより、今後3年間で30億円の売上を目指す。

人事動向-国内

ポリコムジャパンの代表執行役社長にローンフェゼック氏就任

米ポリコム社は、日本の営業拠点であるポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)の代表執行役社長にローンフェゼック(Lorne Fetzek)氏を任命したことを発表。(4月1日)



ポリコムジャパンの代表執行役社長に就任した
ローン フェゼック

(ポリコムジャパン 資料)

フェゼック氏は、20年以上日本に在住し、日本企業の文化に精通しているとともに、市場参入先約や顧客管理における豊富な経験がある。ポリコム社に2010年に入社する前は、ベライゾン社やデル社の日本法人で10年以上にわたりさまざまな役職を歴任してきた。ポリコム社に入社してからは、2012年6月まで CSP(クラウド&サービスプロバイダー)販売戦略本

部のアジアパシフィック統括本部長としてチームを率い、2012年7月にはポリコムジャパンの販売部門の責任者に就任した。

日本は、ポリコム社にとって戦略的に重要な市場である。今後、フェゼック氏は、ハイタッチ営業活動にも注力しつつ、マイクロソフト社などの大手パートナーと共に、ビデオコラボレーションソリューションの販売を広く展開する。と同時に、昨年11月に米国で発表された「Polycom RealPresence CloudAXIS(ポリコム リアルプレゼンス クラウドアクシス)」スイートの日本市場での提供も視野にいれ、早期展開を目指す考えだ。

ちなみに、Polycom RealPresence CloudAXISは、Skype、Facebook、GoogleTalkなどのビジネスビデオアプリケーションを使用するユーザがブラウザを介して簡単にビデオ会議に参加できるようにするソリューション。

製品・サービス動向-海外

Huawei 社、1080p フル HD 対応オールインワンデザインの HD ビデオ会議システム、音声認識に対応し声で相手先にコール可能



Huawei TE30 (Huawei Technologies 資料)

Huawei Technologies 社(ファーウェイ、中国)は、1080p フル HD 対応オールインワンデザインの HD ビデオ会議システム「Huawei TE30」を発表した。(3月1日)

Huawei TE30 は、カメラ、マイク、コーデックを統合したオールインワンデザインのビデオ会議システム。映像は、H.264/HP と H.264/SVC に、また、音声は、AAC-LD に対応。デュアルストリーム(映像/データ共有)は、720p に対応。パケットエラー補正のための「Video Motion

Enhancement(VME) 2.0」を搭載。20%までのパケットロス状態でもビデオ会議は問題ないという。

加えて、ボイスダイヤリング機能を搭載。接続先を声で言うことで、Huawei TE30 本体が音声認識し相手先にコールする。リモコン操作やタイプ入力などの煩雑さが無いという。

その他、ケーブル配線をなくすために、Huawei TE30 本体を操作するコントロールパッドと音声用のマイクは、WiFi にて接続する仕組みになっている。

本体の設置方法は、テレビモニターの上に置く方法のほか、壁掛けや天吊りにも対応している。本体だけであれば、5分で設置できる簡単さが Huawei TE30 の特長だと同社のプレスリリースにおいて説明している。

Sonexis 社と Compunetix 社、音声・ビデオプラットフォーム統合ソリューションを発表

米 Compunetix 社と関連会社の米 Sonexis 社は、両社がそれぞれ提供している音声・ビデオプラットフォームを統合したソリューションを発表した。(3月11日)

Compunetix 社のビデオ会議多地点接続装置「EVERGREEN MCU」と、Sonexis 社の Web 会議機能を統合した音声会議サーバ「ConferenceManager」を統合させることで機能を拡張したシームレスな多地点接続が行える。

この両社の製品の統合により、包括的なコラボレーションソリューションの提供が可能になるとともに、Compunetix 社のトータルソリューションプロバイダーとしての地位強化を目指す。

Broadbox 社、ポリコム社のビジネスメディアフォンを採用したクラウド型ビデオ会議サービスを開始

米 Broadbox 社は、SMB やエンタープライズ向けのクラウド型ビデオ会議サービスを開始した。(3月12日)

Broadbox 社は、マネージド VoIP コミュニケーションおよびコラボレーションソリューションを提供する企業。クラウドサービスでは、ポリコム社のビジネスメディアフォン「Polycom VVX

500/600」を採用。既存の VoIP ネットワークに対応し、プラグアンドプレイで 720p HD のテレビ会議が利用できるという。

シスコ、コラボレーションソリューションにおいて機能強化、「Cisco Telepresence」と「Cisco WebEx」との統合やメディアネット対応

米シスコシステムズ社は、同社のコラボレーションソリューションにおいて機能強化を発表した。(3月19日)

ソフトウェアの拡張とネットワークのインテリジェンスを組み合わせることで、最適なコラボレーション環境を実現しているという。



Cisco Telepresence と Cisco WebEx との B2B コミュニケーション (シスコシステムズ 資料)

発表内容は以下の通り。(1)「Cisco Telepresence」と「Cisco WebEx」との統合: TelepresenceとWebExとの間で、社内外を問わず、会議の招待、スケジュール(Outlook や web)、会議、コンテンツ共有などをシームレスに行えるようになった。また、他社製のビデオ会議システムやモバイル電話機、タブレットなどにも対応する。

(2)「シスコ メディアネット」に対応: Cisco WebEx 以外にも、Cisco TelePresence や「Cisco Jabber(Windows 版)」もメディアネットに対応(コラボレーションインフラ装置も)。このメディアネットに対応することで、従来以上の効率よいビデオネットワーク/リソース(端末、帯域やポートなど)の運用・管理・監視、さらには、問題の検知・解決などが可能なる。

この結果、ユーザエクスペリエンスを損なうことなく、これまでのコラボレーションインフラに比べて 70%もの効率化や最適なコラボレーション環境を実現できると同社では説明

している。

フィリップス社と Vidyo 社、遠隔患者モニタリングソリューションを共同で発表

フィリップス社と Vidyo 社は、遠隔患者モニタリングソリューションを共同で発表した。(3月6日)

今回の発表は、2012年4月の発表(ICU患者のモニター)に続くもので、限られた医療担当者の中で、遠隔地に点在する多数の患者をより効率的に医療サービスを提供する目的で開発された。

今回発表されたものは、フィリップス社の「IntelliSpace eCareManager 3.9 platform」と、Vidyo 社のビデオ会議技術を組み合わせたソリューション。また、このソリューションには、患者のニーズの把握や、患者に対するケアを適切に提供するため、収集された患者データを視覚化する「orb」も統合されている。

ビジネス動向-海外

Compunetix 社と Aver 社、インフラ装置とテレビ会議端末を組み合わせたトータルなコラボレーションソリューションでグローバル提携

米 Compunetix 社は、台湾の Aver 社と、包括的なコラボレーションソリューションにおいてグローバルパートナーシップを締結した。(3月14日)

このパートナーシップによって、Compunetix 社のビデオ会議多地点接続装置「EVERGREEN MCU」と Aver 社の HVC シリーズ HD 対応テレビ会議システムとを組み合わせた、インフラ装置から端末まで包括的なコラボレーションソリューションを提供する。

マーケティング・販売・サポートは、Compunetix 社の関連会社である Chorus Call 社を通して行われる。世界各国にある Chorus Call 社の地域オフィスを活用して販売展開を図る。

(次のページへ続く)

BurstPoint 社と Compunetix 社、ストリーミングソリューションにおいてパートナーシップを締結

米 Compunetix 社は、米 BurstPoint 社(ニューハンプシャー州)とストリーミングソリューションにおいてパートナーシップを締結した。(3月14日)

Compunetix 社のテレビ会議多地点接続装置「EVERGREEN MCU」とBurstPoint 社が提供するストリーミングプラットフォームとを組み合わせることで、スケーラブルなストリーミング、レコーディング、アーカイブの機能を組み合わせる。そうすることでテレビ会議の参加者は、ライブ映像もしくはオンデマンドの映像を視聴できるようになる。

両社によると、ユーザは、こういったストリーミングとテレビ会議をひとつのベンダーから購入したいという要望があるという。

Compunetix 社と Vidtel 社、従来のテレビ会議システムと WebRTC や Google Talk、Skype をつなぐソリューションで提携

米 Compunetix 社は、クラウド型テレビ会議サービスを提供する米 Vidtel 社(カリフォルニア州)とパートナーシップを締結した。(3月13日)

パートナーシップにより、従来のテレビ会議システムと WebRTC ベースのブラウザ、Google Talk、Skype などとが相互に通信が行えるコラボレーションソリューションが実現する。この統合されたコラボレーションソリューションは、Compunetix 社の関連会社 Chorus Call 社から提供される。ワールドワイドに電話会議やテレビ会議などのコラボレーションサービスを提供している会社。

Vidtel 社は、エニー to エニーのソリューションを Compunetix 社のテレビ会議多地点接続装置「EVERGREEN MCU」に提供することで、Compunetix 社が、多様なニーズに対応するカスタマイズソリューションを提供することが可能になるという。

台湾の中華電信、クラウド型テレビ会議サービスのプラットフォームとして、Avaya 社の RADVISION ソリューションを採用

米 Avaya 社の発表によると、台湾最大の通信事業者 中華電信 (Chunghwa Telecom) は、クラウド型テレビ会議サービスのプラットフォームとして、Avaya 社の RADVISION ソリューションを採用した。(3月18日)

中華電信が台湾企業向けに提供するクラウドサービスのプラットフォームには、「RADVISION Scopia Elite MCU」を採用。ユーザは、「Scopia Desktop」や「Scopia Mobile」を Mac や Windows PC、iPhone、iPad、Android デバイスにインストールすることでどこからでもテレビ会議サービスを利用できる。また、ユーザサポートには、中華電信の専門の担当者が 24 時間対応することになっている。

その他、中華電信は「Scopia XT ルームシステム」、「Scopia Pathfinder」、「Scopia ISDN Gateway」なども導入。

Arkadin 社、アジア太平洋地域における次世代遠隔会議ソリューション提供で HGC 社と提携

Arkadin 社(フランス)は、Hutchison Global Communications 社(HGC)と、アジア太平洋地域における次世代遠隔会議ソリューション提供で締結したと発表。(3月6日)

この締結によって、Arkadin 社のコラボレーションソリューションによって HGC 社のソリューションやサービスが強化されるとともに、一方で、Arkadin 社にとっては、HGC 社のグローバルネットワークリーチを活用することで、アジア太平洋地域でのプレゼンスを強化する。

HGC 社は、デスクトップやモバイルからのアクセスを含む、ビデオ会議・音声会議・イベント会議ソリューションなどを提供する予定。

Vidtel 社と BurstPoint 社、テレビ会議サービス向けのレコーディングとストリーミングにおいて戦略的パートナーシップを締結

Vidtel 社と BurstPoint 社(それぞれ米国)は、テレビ会議サ

ービス向けのレコーディングとストリーミングにおいて戦略的パートナーシップを締結した。(3月18日)

Vidtel 社のクラウド型テレビ会議サービス「Vidtel MeetMe」と、HD コンテンツの録画と配信ソリューションである、BurstPoint 社の「Video Communication Platform(VCP)」をシームレスに統合し、Vidtel 社のサービスユーザーに対して、テレビ会議のキャプチャーと録画機能を提供する。

両社によると、テレビ会議サービスにおいて、コンテンツの録画および配信機能は不可欠という認識から今回両社のソリューションを組み合わせたサービスを開発した。ユーザーは、豊富な機能のほか、システムの統合、シームレスな相互接続を望んでいるという。それに応える形となる。

Vidtel 社のテレビ会議サービスは、SIP(「Cisco Jabber」など)、H.323、WebRTC ブラウザ、GoogleTalk、Skype などの相互接続に対応したサービスとなっている。

Neowave 社、Videnda 社、Vu2Vu Networks 社の 3 社、Vidyo 社ビデオ会議技術を使ったビデオ会議サービスのジョイントベンチャー設立

Neowave 社(英)、Videnda 社(アイルランド)、Vu2Vu Networks 社(アイルランド・米・南ア)の 3 社は、ホスティングサービス形式(hosted service)のテレビ会議サービス提供のためのジョイントベンチャー企業 VVN Network 社を設立した。(3月6日)

Neowave 社と Videnda 社は、Vidyo 社のディストリビュータで、Vu2Vu 社は、グローバルサービスプロバイダ。3 社が、Vidyo 社のビデオ会議技術をジョイントベンチャーすることで、グローバルなテレビ会議サービスの提供を行う。サービスは暗号化され、従来のビデオ会議システムとの接続も可能。さらに、ユーザーズに応じてマネージドサービスや API も提供する。

このジョイントベンチャーによるサービスは、ホワイトラベル方式(独自ブランドでのサービス提供)で提供する。たとえば、NeoWave 社では「NeoCloud」、また、Vu2Vu Networks 社では「Vu2VuClick」というサービスブランド名で

Vidyo 社技術をベースとしたビデオ会議サービスを展開する。また、一方で、Videnda 社は、同社のパートナーであるリセラーやサービスプロバイダー経由で提供する計画だ。

オープン web ベース会議システムの VisoCon 社、ベンチャーキャピタルからの資金調達、世界市場へ

スマートビデオ会議ソリューションを提供する VisoCon 社(オーストリア)は、ベンチャーキャピタルからの資金調達を行ったと発表。(3月18日)

今回の資金調達では、オーストリアのベンチャーキャピタル i4g 社と tecnet equity 社などが出資した。

VisoCon 社は、リアルタイムコミュニケーション技術分野に 12 年間かかわっており、いくつかの特許とともにオープン web ベース会議システムを開発。

調達された資金は、映像と音声の品質、インテグレーション、ユーザビリティなどに強みを持つ新製品の開発に投入されるほか、ワールドワイドのセールスネットワークの構築に投入されるという。遠隔会議システムの世界市場でメジャーな企業として成長していく考えだ。

導入・利用動向-国内

シャノン、「V-CUBE ミーティング」を活用した遠隔営業。遠方顧客の営業活動が効率化し、商談スピードを約 25%改善

株式会社ブイキューブ(東京都目黒区)は、企業のマーケティング活動を支援する株式会社シャノン(東京都港区)に、「V-CUBE ミーティング」を提供している。(3月14日)

シャノンでは、訪問頻度を増やすことが難しい遠方の顧客への提案や営業に V-CUBE ミーティングを活用しており、これにより商談スピードが改善し、地方顧客の成約にも結びつく効果をあげているという。

導入した背景。同社では、利用する法人企業が保有している個人情報扱うことから、商談時に、セキュリティ面など技術的な質問を受け付けることがある。しかし、製品開発も担当

している技術エンジニアが全ての商談に営業同行することはこれまで難しく、営業担当者は顧客からの技術的な確認事項は自社に持ち帰り、確認の上改めて顧客先に訪問しなければならないという、効率的に営業活動が進められない課題をかかえていた。

そこで、シャノンでは営業訪問先での商談の効率化を図るため、V-CUBE ミーティングを営業プロセスの中に取り入れ、訪問先の商談に、技術エンジニアが自社から遠隔で参加する方法を採用。

この結果、商談単位で発生する技術的な確認事項をその場で確認できるだけでなく、商談でのコミュニケーション密度が高まることによる顧客との信頼関係の早期醸成が可能となり、成約スピードが約 25%改善した。また、顧客先で利用する際には、専用の URL をクリックするだけで、商談を開始することが可能で、初めて利用する場合であっても簡単に利用できるという。

なお、ブイキューブでは、今回の導入事例は、遠隔からの営業同行による営業活動の効率化や、遠方への顧客に対する販売機会損失の低減に貢献できる好例と考えている。

株式会社シャノン <http://www.shanon.co.jp/>

セミナー・展示会情報

< 国内 >

会議の効率化を実現！『ConforMeeting 無料体験セミナー』 定期開催

日程：4月17日(水)、24日(水)、5月15日(水)、22日(水)、29日(水)、6月5日(水)、12日(水)、19日(水)、26日(水)

※全ての日程で 13:30-14:30、15:30-16:30 の 2 回開催

会場：NEC 情報システムズ 本社(東京都港区)

主催：日本電気株式会社、株式会社 NEC 情報システムズ

詳細・申込 <http://www.nec-nis.co.jp/topics/event/conformeeeting/seminar.html>

ついに発売! 最新コミュニケーション基盤

Microsoft Lync 2013 による新しいワークスタイル改革

日時：4月19日 10:00-12:20

会場：マイクロソフト 九州支店 (福岡市博多区)

主催：日本マイクロソフト株式会社

詳細・申込：

<https://msevents.microsoft.com/CUI/EventDetail.aspx?EventID=1032547756&Culture=ja-JP&community=0>

成果を生み出す新しい営業会議のカタチ!

ソフトブレン / ブイキューブ共催セミナー

日時：5月23日(木) 14:00-16:30(受付開始:13:45)

会場：八重洲サンスカイルーム(東京都中央区)

主催：ソフトブレン株式会社、株式会社ブイキューブ

詳細・申込：http://www.softbrain.co.jp/seminar/other/tokyo_130523.html

【"見える"カレッジセミナー in 大阪】 Web 会議の活用
法とメリットとは ~ テレビ会議 (Polycom) と使う、スマートフォン・タブレットで使う ~

日時：5月23日(木)14:00-16:00 (受付:13:30-)

会場：TKP 大阪梅田ビジネスセンター(大阪市福島区)

主催：株式会社ブイキューブ

詳細・申込：<https://vcube.smkgt.jp/public/seminar/view/82>

国内その他：<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他：<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

* イベント情報は、情報が入り次第、随時掲載しています。

定期レポート 電子ブック版

CNA レポート・ジャパンでは、2003 年から定期レポートを PDF 版で発行しておりますが、2012 年、カタログスクウェア株式会社、定期レポートの電子ブック版を製作していただきました。

これまで定期レポート(PDF 版:2003 年から)については、1 号毎にファイルを開いて読む形でした。それに対して、電子ブック版では、複数の号が 1 冊にまとめられ雑誌のページをめくるように定期レポートが閲覧できるようになりました。また、記事内の検索もしやすくなりました。PC のほか、スマートフォン、タブレットから閲覧できます。

この電子ブック版は、これまでの 1 号単位の PDF 版と並行して提供します。

CNA Report Japan アーカイブ 電子ブック版

2003 年-2012 年

http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/

2013 年

http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/ebook/

カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

* 遠隔会議業界で長くお勤めされ、今年電子カタログ・ソリューションで起業された方が経営されている会社です。

* この電子ブック版についてご意見等ございましたらよろしくお願いたします。橋本宛 cnar@cnar.jp

編集後記

今号もお読みいただきましてありがとうございます。

次号もよろしくお願致します。

橋本啓介